



老い老いに

## 木幡智恵美

65

「昨日の地震で今日の勉強会中止になると思わなかつた?」点訳の勉強会に行くと、私より先に来ていた人に言われた。「いや」と答えると、その人は「まあ、この建物は新しいからね」と。他にも、「私、昨日みたいに揺れた地震初めてだつたわ」と言ふ人もいた。

一月六日の午前十時十八分に起きた地震についてだ。その時刻、まだ冬休み中だつた孫のところに行き、近くの郵便局のATMに向かつてお年玉貯金を預け入れる操作をしている最中だつた。揺れてるな、ちょっと大きいなという感じで収まるのを待つた。頑丈な建物、しかも狭い部屋の中だつたからかもしれないが、震度三くらいかななどと思っていた。操作を終えて外へ出たら、郵便局から出て来た男性が「五だつて、震度五」と教えてくれてびっくり。二〇〇〇年の鳥取西部地震の際は、震源地近くにて、この世が終わるかと思うほどの揺れを体感した。何より時々襲つてくる地鳴りの音が恐怖を煽つた。マグニチュード七・三、六強だつたのだ。郵便局から帰つてテレビをつけてみると、どの局も地震のニュース。マグニチュード六・二、震度五強とのこと。遠くに居る息子や伯母から安否を気遣う電話やメールが入る。保育所からも迎えの依頼が入り、夫が末の子を玉湯に連れ帰つて來た。被害の様子が報道され、改めて地震の大きさを知つた。被災した方々が早く元の生活に戻れるよう願うばかりだ。

さて、夕焼け通信六百号は二〇〇六年二月十三日、編集後記で触れることがなく、ごく普通に発行された。執筆者は、今も書き続けてくださっているN・Rさん、「療養日記」のS・Oさん、そして編集長と私で、紙面は四ページ。

六百号を過ぎてからは小学生の詩の投稿者が現れ、教師から漁師になつたS・Hさんの連載が始まり、夕焼け通信は十四年目に突入する。四月から加わつたのが「団塊のひとりごと」のK・Iさん。そのほかはこれまでおなじみのY氏の「かさこじぞうを演じる」の連載が続き、もちろんM・Iさんの「ゴジラの足跡」も続いている。詩ではK・Aさん、T・Hさんが、そして、時折海外からスウェーデン便りも届けられ

の運動歴およそ三十年になる。ほとんど我流で、思いつきで内容や順番を決めているので、科学的に見ればずいぶんトンチンカンなことをしているのかもしれない。懇切丁寧に手引きしてくれる本やら動画やら世に数多あることは重々承知しているが、そういうものに学ぶ気がなく、たまたま見たり聞いたりした運動に手を出してみては、続かなかつたり続いたりで今日に至る。むだな回り道ばかりしている気もするが、それなりに自分に合つてゐるから続いているのだと思う。

前のアパートには八年暮らし、その間に縁あつてランニングの手ほどきを受けた。始めてしばらくの間はおもしろいように記録が伸びるので、それが動機づけとなり、生まれて初めて走るのがおもしろくなつた。ところが四年目五年目となると、だんだんとめんどうになつてきた。天気が悪いのを幸いに四五日も走らないでいると、体がなまつてているのがわかる。それを悔いるがいやさに、えいやつと起き出して何とか走るのだが、最小努力で現状維持に努めるのが精一杯という状態になつてしまつた。

昨年四月に転居してからは、意外なことに走るのが苦痛でなくなつた。走る気がなくなつた原因は何であるかあれこれ考えていたのに、何のことはない、ラン

下逆さまになるからか、鉄棒をすると内臓の偏りが矯正されるようでまことに具合がいい。そのうち体を起きたところでだれにも気づかれまいと思つたら、やつておも子を鉄棒上で起こすことがままならない。ここまで背筋が弱つてしまつたか、と情けなくなり、毎日の運動に加えることにした。くるつと遠心力を使つて上下逆さまになるからか、鉄棒をすると内臓の偏りが矯正されるようでまことに具合がいい。そのうち体を起こすことも難なくできるようになつた。この間は犬を散歩させていたおばあさんにほめられた。

「私も子どものころは得意だつたんですけどねえ」だれに見せるのでもなく、できなくとも一向にかまわない、内臓が喜んでいる、という状況に気を良くして、しばらく前から蹴上がりの練習を始めた。若いころちょっとだけきた。今は、笑つてしまふほど体が持ち上がらない。この様子だと五年経つても十年経つてもこのままかもしれないが、できそうにもないことをただただ地道にやつて、やつぱりできないという結果も一つは持つておきたい。

ニングコースにすつかり飽きていたのだつた。実は変化を欲していた、ということらしい。

いろいろコースを試してゐるうちに、近くの公民館の敷地内に鉄棒があるのを見つけた。夜明け前で人通りもほとんどなく、じいさんが鉄棒にぶら下がつてたところでだれにも気づかれまいと思つたら、やつてみたくなつた。逆上がりを試みたらどうにかできたが、体を鉄棒上で起こすことがままならない。ここまで背筋が弱つてしまつたか、と情けなくなり、毎日の運動に加えることにした。くるつと遠心力を使つて上下逆さまになるからか、鉄棒をすると内臓の偏りが矯正されるようでまことに具合がいい。そのうち体を起こすことも難なくできるようになつた。この間は犬を散歩させていたおばあさんによめられた。

30代フリーター 高市早苗が今月23日

召集の通常国会冒頭で衆院を解散すると報じられている。高い内閣支持率は衰えず、自民党が単独過半数を獲得する可能性も指摘されている。

年金生活者 いま選挙があつたらどの党に投票したいかという質問に、自民党と答えた人がこの半年で4割増え、増加分のほとんどが高市に好感を持つ人で占められていることが、朝日新聞と大阪大の社会心理学の教授・三浦麻子によるネット意識調査でわかつたといふ（12月29日朝日新聞朝刊）。

「高市効果」が自民の議席を増やし、「高市1強」を現出させる可能性がある。

「日本初の女性首相」の看板が高市を現代にタイムスリップした太陽神アマテラスにし、ミソもクソも同じように輝かせてしまつてはいるのが今の日本の政治状況だ。他の先進諸国で女性首相が誕生しても、同様のことが起きる可能性は想定しにくい。類例のない高市人気は母系制への回帰を示すものであり、他国にはない天皇制が回帰の経

路となつてゐると思える。

30代 ジイさんの話も大昔にタイムスリップしている。

年金 右派、保守派は男系男子による皇位の継承を主張する。つまり天皇制を父系制と理解している。しかし、未

『古事記』『日本書紀』の神話では、天皇の始祖は女性神のアマテラスとさ

れており、天皇制のルーツは母系制だ。吉本隆明は『共同幻想論』で「未

が現実的な規範によつて種族を支配した」社会を「母系」制の社会」と呼

び、その原型をアマテラスとその弟のスサノオの関係に見ている。

30代 高市政権の誕生は、世界的なナショナリズムの高まり、言い換えれば

「愛国心」の高まりの波が日本にもおよんだ結果だろう。

年金 吉本の言葉を借りて言えば、国を愛することは、国家という「共同幻想」を、愛という「対幻想」の対象に

することを意味する。愛国心の高まり

は、別次元にある「共同幻想」と「対幻想」が例外的に合体した状態と考えることができる。日本の場合、その合

体が母系制への回帰をとつて起きている。吉本は「兄弟と姉妹のあいだの「対なる幻想」が種族の「共同幻想」に同致するところ」に「母系」制社会の本質があるとし（『共同幻想論』）、「同致」という独特の言葉

でふたつの幻想の合体を言い表している。母系制を根幹とする天皇制はしたがつて、「愛国心」に火をつけや

い。

30代 他の先進諸国は違うのか。

年金 市民革命によつて形成されたフランス人の「愛国心」を表す

「patriotisme」のもとになつた「patrie」は「祖国」「郷土」「故郷」を意味し、その語源はラテン語の

「patria」（父の土地、祖国）で、さらには「pater」（父）にさかのぼるとされる。西欧の愛国心は日本と違い、父系制への回帰によつて高まる可能性を想定する」とができる。

法律上は政治に関与しないことになつてはいる天皇は、条件さえそろえば政治情勢を一変させる力を秘めていることを高市人気から読み取ることができる。

30代 総選挙で自民党が勝つたとしても、高市政権の「積極財政」はインフレを助長し、さらなる高物価で国民生活を圧迫する可能性があり、いずれ政権が行き詰まるときが来るのではない

が、税率が上がつたわけではないの客のほうは増税された感じがしない。しかし、税収は3円の増収となり、政府債務は減つていく。

インフレは国民全員におよび、金融資産も目減りさせてるので、金持ちへの課税が実質的に強化されることになる。その結果、富の分配は平等化へと向かう。また現役世代の社会保険料負

担も実質的に軽くなる。こうして大きな所得の再分配がだれも気づかぬうちにに行われる、と池田は説明する。これに素人なりにつけ加えるとすれば、インフレ税による増収を、国民の求めれる所得税の減税やバラマキの財源にすることもできるし、政権の目指す防衛費の増額や危機管理への投資にあてることもできる。

国民にゆでガエルのように熱さを感じさせないで増税でき、所得の平等化や新たな施策の追加を可能にするインフレ税は、高市政権にとって、苦労しないで高支持率を維持していく大きな追い風となる可能性がある。

30代 政権にとつては、濡れ手で栗のようになることになる。

年金 物価対策と称して進められる減税やバラマキは逆効果を生み、政権の最大のつまづきの石になる可能性があると私も考えていた。しかし、インフレ税がそれを回避する可能性があるなら、その考えは変えなければならぬ。運のいい政権だよ。

年金 史上最大規模といわれる新年度予算案は、実は「積極財政」ではなく、逆に「大増税の緊縮予算」と池田信夫が指摘している。約3%のインフレが4年ほど続き、実質的な増税となる「インフレ税」が課されることになるからで、その結果、財政赤字の縮小や富の再分配が進むと予測している。池田はこのインフレ税をラーメンの値段にたとえて説明している。3%のインフレになると、1000円のラーメンが1030円になる。その結果、消費税は100円から103円になる